

2016.7

News Letter 03



ラボ活動報告『町の記憶/ストーリーを呼び起こそう』編 第2弾

今月は、水碓周辺にお住まいの方に地域や住まいに関する歴史を聞き出すインタビューを行ないました。家々が持つ長い歴史の上に、自分の暮らしを重ねることに、お金では買えない価値を見出す人が増えています。阿武町での空き家活用にも、この「ストーリー」を記録・発信・活用することで、移住希望の方はもちろん、町民自身の阿武町への理解と誇りを育んでいきます。

21^{世紀}の
暮らし方
研究所



日時 >> 2016.7.23 Sat 13:30-16:30 参加 >> 25名(町内15名, 町外10名)
プログラム >> レクチャー --- 班別インタビュー --- まとめ作業

レクチャー インタビュー＆ 写真撮影のコツ

インタビューに出かける前に、studio-Lの西上さん、村岡さんより、スムーズに話を進めるコツと、インタビューの様子を効果的に伝えるため写真の撮り方を学びました。



4つの聞き方

1 集中して聞く

相手の話をさえぎらずに聞くことが大切です。「ふむふむ」とうなずきながら、身体を前のめりにして聞くと、相手も喜んで話してくれます。

2 共感しながら聞く

感情を言葉にする聞き方です。「なるほど！そうですね！」と声にしてみましょう。

3 理解して聞く

「要するに～ということですか？」と3点くらいのポイントにまとめる聞き方です。初めて聞いた話や、事実を確認したいときに使うと効果的です。

4 整理して聞く

「たとえば、こんなイメージですか？」と、言葉を置き換えて、相手の話を整理するように聞く方法です。具体的な話に踏み込むときに使えます。

2つの質問の形

1 クローズドクエスチョン

はい・いいえで答えることができる“閉じた質問の形”です。初めて話す人や話すのが苦手な人との最初の会話に有効です。

2 オープンクエスチョン

はい・いいえ以外で答えることができる“開いた質問の形”です。答えの範囲を設けないので、相手の想いや考えをそのまま引き出すことができます。

たとえば… 泣いている子に声をかけるとき

「お腹が痛いの？」

「ご飯は食べられそう？」

「どんな風に痛いの？」

「どうしてほしい？」

3種類の写真

1 遠景

引きの写真です。その場の空気感を伝えることができます。



2 中景

胸元～顔の範囲を写した写真です。生き生きとした表情を伝えることができます。



3 近景

特徴的なアイテム（道具等）の写真です。挿絵のようなポイント使いができます。



TRY !

**6名の方に
インタビュー**

6班にわかれて、水碓周辺にお住まいの方にインタビューに伺いました。昔の地区の様子や住まいの歴史、商売にまつわる道具など、1時間にわたり見聞きました。水碓に戻ってからは、それらを魅力的に伝え残すためのまとめの作業をしました。



..... 1班は若松屋玲子さん宅へ



..... 2班は八代定治さん宅へ



..... 3班是水津浩子さん宅へ



..... 4班是水津肇・君代さん宅へ



..... 5班は河野とみ子さん宅へ



・・ 6班是水碓に水津初江さんをお呼びして ..



インタビューの感想

- * 今の阿武町にはない建物も多くあり、人々が楽しめるものが沢山あったことを知れた。
- * 若松屋さんがとても明るくこちらの質問に積極的に話してくださったので、若松屋さんのことがとても良くわかりました。
- * 普通にあるただの道具なども、一つひとつに想いや思い出があり、嬉しそうに語っていただけだ。
- * 阿武のまちの記憶を呼び起こす実感があり、印象深かった。
- * 門名の存在、昔は門名で呼び合っていたことや、阿武町の過去の写真、様子を当時を知っている方から聞いたことが貴重な体験となりました。
- * 時代は違っても、女性の思いや生活、暮らしぶりは共通する部分が多くあると感じました。



インタビューで印象に残ったこと、言葉

- * 「海に出れば出るだけ金になった」
- * 子育てをしながら年中無休で朝6時～21時営業という激務をこなされていたこと。
- * 門名の由来をはじめて知った。
- * 阿武町を離れてくれしていても家を大切に誇りに思っておられること。
- * かつて多くの子どもが路地を行き交い、それを念頭に話していた水津さんが「何で今はこんなになってしまったのかねえ」と言っていたことが印象に残った。
- * パチンコ屋や演芸館が浜のエリアにあったという話は初耳でした。



阿武町に対する新たな発見

- * 昔の町内は漁業でかなり栄えていた
- * 日本耐火の向上で昔はとても人が多く、にぎやかだったと知り、おどろきました。
- * 救急車が来れない、空き家を預けると実家が無くなってしまうきがするというその地に住む人の本音が聞けた。
- * 屋号の存在、その由来は100年前くらいからあること。
- * 娯楽が多い町だったのかと意外に思いました。
- * 地域の方々との繋がりが非常に密接で、昔からの知恵を借り助け合って生活をしていたこと。

8月ラボのご案内

開催日 >> 2016.8.27 Sat 13:30-16:30 場所 >> 八代本店

テーマ >> 『町のストーリー / 記憶を呼び起こそう』第3弾

7月に町内の6軒のお宅を訪ね、インタビューをした結果を
発表します。また9月の空き家見学に向けた準備をします。

事務局 >> 役場総務課企画広報係 tel 2-3111 ニュースレター編集 >> 株式会社 studio-L